

特集 2 : Clinical and Experimental Nephrology (CEN)の歩み

まえがき—CEN の育成に向けて

槇野博史

この度、日本腎臓学会英文誌「Clinical Experimental Nephrology (CEN)」の Web of Science (Impact factor データベース)への掲載が決定し、学会員の念願であった Impact Factor の取得が決まったことは、喜びに堪えません。これは、歴代の編集委員長をお務めになられた、今井正、清水不二雄、

木村玄次郎先生をはじめとして、編集幹事、編集委員の方々の努力の賜物であり、厚く御礼を申し上げます。木村玄次郎先生のご発案で 2009 年 6 月の日本腎臓学会学術総会で「Clinical Experimental Nephrology (CEN)—Impact Factor 取得後の活動に向けて—」が編集委員会企画として取り上げ



図 日本腎臓学会誌創刊号の和文と英文目次

Preface : Time to act for the higher impact factor of Clinical and Experimental Nephrology

日本腎臓学会理事長

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学

られ、今回の企画に繋がりました。

日本腎臓学会は、昭和 34 年(1959 年)7 月 20 日に学士会館において発起人一同参集して創立されました。その 3 カ月後には日本腎臓学会誌創刊号(図)が発刊されています。創刊号の会則にも記載されていますが、機関雑誌の「日本腎臓学会誌」の発刊は、学術集会の開催とともに日本腎臓学会の最も重要な事業であります。創刊号からすでに英文タイトルは付記されており、当初は「the Japanese Journal of Renology」でしたが、翌年の昭和 35 年の第 2 巻より「the Japanese Journal of Nephrology」と英文名が変更されました。“Nephrology(腎臓学)”という言葉は、Japanese Society of Nephrology という英文名を考えるときに日本で作られ、ISN(International Association of Nephrology)、ASN(American Society of Nephrology)と、“Nephrology”は米国でも使用されるようになりました。

さて、日本腎臓学会の英文誌である CEN は国際性を高めるために 1997 年に創刊されました。2003 年に MEDLINE(Index Medicus)に申請して採択されたものの、同年と 2005 年の 2 回にわたる Web of Science への申請は不採択という残念な結果でした。2006 年には Online 投稿査読

システム、2008 年には Online first 出版前電子ジャーナル版公開システムを導入し、着々と CEN を整備してきました。その甲斐もあり、2008 年末に Web of Science の取載がついに決定されました。CEN の発刊の経緯については本企画のなかで今井正初代編集委員長が、また Web of Science への申請の経緯とそこご苦勞は第二代目の清水不二雄編集委員長が詳しく述べておられます。

2011 年には Impact factor の公表があります。会員諸氏におかれましては優れた論文をご投稿し、CEN をしっかり引用し、Impact factor を高めていただきたいと存じます。私は日本腎臓学会の理事長としての方針の一つに、日本腎臓学会の活動のグローバル化を掲げて実践して参りました。腎臓学会のグローバル化に CEN の育成は必須です。CEN の Web of Science への取載がついに決定され、われわれはようやくスタートラインに立ったところです。まさにこれからが、CEN の真価を問われます。質の高い臨床・基礎研究成果を CEN にご投稿いただき、わが国から確かなエビデンスを世界に向けて発信しようではありませんか。会員諸氏の更なるご支援をお願い致します。